



SINCE 1990

廃棄物学会 東海・北陸支部 会報

No.12 廃棄物学会 東海・北陸支部



支部活動の現状と今後の取り組み

～2年間の「環境教育」活動を振り返って～

東海・北陸支部支部長

鈴木 憲司

東海・北陸支部の支部長を仰せつかって早2年が経とうとしています。支部活動の継続を基本にして、新たな活動の力点を「環境教育」に置き、常議員会や幹事会で実践を前提とした「環境教育」のあり方について何度も議論を積み重ねました。子供達を相手にして何を如何にして教えればよいのかについて真剣な議論がなされてきました。自治体や企業が作成し、小学生や地域住民に配布しているテキストの収集、環境団体や子ども会、地域住民によるごみ収集等の実践活動、各種講演会等々の現状について情報収集を行いました。どの活動も意義のあるもので、活発に行われています。対象者は子供や地域住民、市民活動家など、さまざまです。こうした状況下、「廃棄物学会の独自性を如何に發揮するか、または發揮できるか」ということがいつも議論の中心でした。今日もそれは変わりません。まだまだ結論が見えていませんが、昨年、子供達が「環境」に対する関心を持つことを狙いとして小学校6年生に講演を行い、リサイクルの必要性を理解してもらうといった一定の成果を収めることができました。また、3名の講師を擁して中学・高校一貫教育の学校を訪れ、約800名の生徒を前に「環境教育」を行いました。廃棄物処理の技術的な内容だけでなく、公害等の歴史、見方及び考え方、倫理・道徳、人生観といった内容にまで及びました。子供達を対象にした「環境教育」の実践は支部として初めての取り組みでした。講演後のアンケート調査では、圧倒的に多くの好意的な意見が寄せられました。実践すれば反応が返ってくるという貴重な経験でした。内容は東海・北陸支部のホームページ (<http://www.jswme.gr.jp/tohkai/>) にてご覧になることができます。

廃棄物学会の会員は、教育現場・生産現場・地方自治・地域などでひろく「環境」に関わる仕事や活動を日常的に実践している専門家集団です。これらの人々が協力し合えば学会の独自性を發揮した「環境教育」が実現するものと確信しています。会員の皆さんのが日常取り組んでいる業務内容、そこにおける貴重な経験、時には失いかけた展望や夢を支部から子供や地域に発信していくこと、こうした活動を通して私たちの確信にしたいと考えています。

平成19年度 廃棄物学会東海・北陸支部 市民フォーラムのご案内

地球温暖化がマスコミをにぎわせている昨今、水害や震災による被害を身近に感じます。阪神・淡路大震災で6000名以上の貴重な命が奪い去られて早13年が経ちました。今日、過去の経験や教訓に学び、私たちが住む町の災害に対する備えについて考えておくことが大切になっています。今回のフォーラムでは、水害や震災時に発生する大量の災害廃棄物について、それらの状況と処理対策について学びます。

開催日：2008年3月22日（土）10:30～16:00

会場：中部大学名古屋キャンパス6階大ホール
(名古屋市中区千代田5-14-22)

<http://www.chubu.ac.jp/location/index.html>

交通アクセス：JR中央本線「鶴舞」駅 名大病院口（北口）下車すぐ
地下鉄「鶴舞」駅下車 北へ約100m

定員：50名程度

テーマ『災害時に発生する諸問題とその対策・予備』(仮題)

◇ 話題提供

10:30～11:10 小松 隆雄 氏 (名古屋市環境局事業部)

11:10～11:50 岡山 朋子 氏 (名古屋大学エコトピア科学研究所)
(昼食・休憩)

13:30～14:10 平山 修久 氏 ((財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター)

14:10～14:50 石橋 稔 氏 (佐藤工業株式会社 環境事業部)

◇ パネル討論 (15:00～16:00)

コーディネーター：松葉 基司 氏 (名古屋市環境局)

パネリスト：話題提供者他

◇懇親会 (17:00～19:00) 支部総会終了後、講師陣を囲んで行います。

◇ 参加費：廃棄物学会会員1000円、学生500円、その他1500円
(当日、受付でお支払い下さい。懇親会会費は別途5000円)

申込方法:E-mailまたはファックスで、市民フォーラム・総会及び懇親会の出欠と
連絡先を明記のうえ、3月12日(水)までに下記宛お申し込み下さい。

申込先：〒464-8603名古屋市千種区不老町

名古屋大学エコトピア科学研究所内

廃棄物学会 東海・北陸支部事務局 (担当：伊藤麗子、中尾忍)

TEL / FAX : 052-781-2541

E-mail:r-ito@esi.nagoya-u.ac.jp (伊藤)

平成 20 年 1 月 15 日

正会員 各位

支部長 鈴木 憲司

廃棄物学会東海・北陸支部 平成 19 年度定期総会 開催のお知らせ

支部内規に従い下記のように 3 月 22 日(土)、中部大学名古屋キャンパスにおいて、平成 19 年度定期総会を開催致します。当日は同封資料にありますように、恒例の市民フォーラムを開催致しますので、会員の皆様におかれましてはお誘い合わせのうえ、ご出席頂きますようご案内申し上げます。支部総会には定足数(支部正会員の 1/5)がございますので、当日ご出席できないかたは恐れ入りますが、市民フォーラムへの参加の有無にかかわらず、参加申込票の下部にあります委任状をファックスまたは郵送にてご提出頂きますようお願い致します。

記

日 時：平成 20 年 3 月 22 日(土)16:00～16:45

場 所：中部大学名古屋キャンパス 6 階大ホール

名古屋市中区千代田 5-14-22 <http://www.chubu.ac.jp/location/index.html>

交通アクセス

JR 中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口) 下車すぐ

地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約 100m

- 議題：
1. 平成 19 年度事業報告案
 2. 平成 19 年度決算報告案
 3. 平成 20～21 年度役員選出
 4. 平成 20 年度事業計画案
 5. 平成 20 年度予算案
 6. その他

支部長、副支部長及び常議員候補者推薦のお願い

役員選出監理委員 藤江 幸一

支部内規及び役員選出に関する申し合わせに従い、次期支部長、副支部長及び常議員候補者を2 月 15 日(金)までに廃棄物学会東海・北陸支部事務局宛に文書(電子メール可)にてご推薦頂きますようお願い致します。推薦人は個人でもグループでも結構です。正会員の皆様からの推薦をもとに常議員会で次期役員候補者を協議・決定致します。

◇ 推薦書提出先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学エコトピア科学研究所気付

廃棄物学会東海・北陸支部事務局

支部長 鈴木 憲司

E-mail k-suzuki@esi.nagoya-u.ac.jp

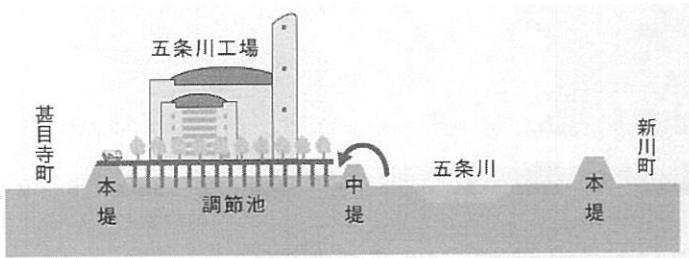
施設見学会報告

名古屋市大都市圏における資源化事業について 名古屋市「五条川工場」と北名古屋衛生組合「鴨田エコパーク」

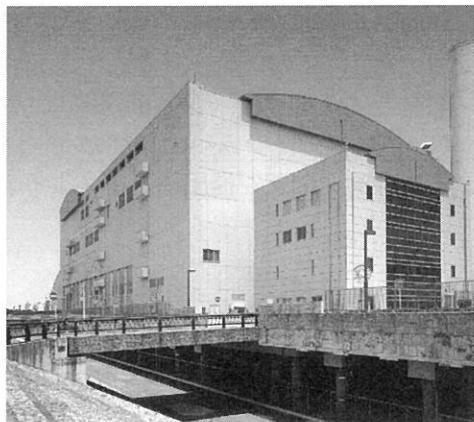
平成 19 年 11 月 9 日（金）に廃棄物学会東海・北陸支部主催の施設見学会として名古屋市「五条川工場」と北名古屋衛生組合「鴨田エコパーク」を見学しました。参加者は学生 8 名を加え、総勢 46 名で盛況でした。以下に見学会の概要を報告します。

名古屋市「五条川工場」では、はじめに、鈴木憲司支部長（名古屋大学）の挨拶があり、続いて五条川工場長・日比光男氏から施設説明、施設ビデオ上映、施設案内を受けました。

五条川工場は愛知県海部郡甚目寺町にあり、名古屋市ではじめて灰溶融設備を導入した施設です。プラズマアーク炉による焼却灰や飛灰の溶融を行っており、処理物である溶融メタル・溶融スラグの資源化のほか、溶融飛灰の山本還元処理委託による資源化を実施しています。全連続燃焼式焼却炉が稼動し、その処理能力は 1 日あたり 560 トン（280 トン/日 × 2 炉）で、プラズマアーク炉の溶融能力は 1 日あたり 70 トン（35 トン/日 × 2 炉）です。さらに、同工場は五条川の河川敷内に高床式で建設され、工場の下は洪水時の調節池になっており、治水にも配慮されていることが特徴となっています。



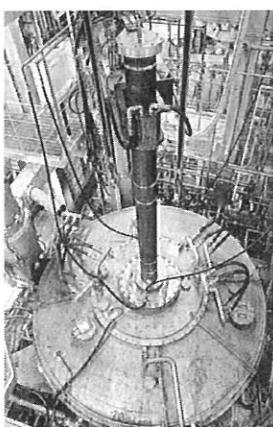
高床式工法



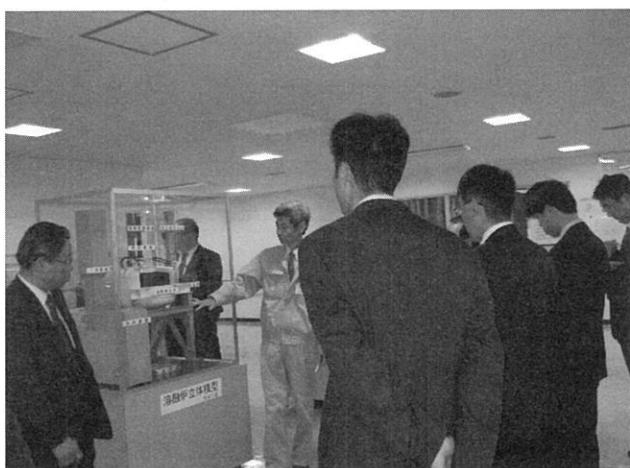
五条川工場の全景



五条川工場の概要説明



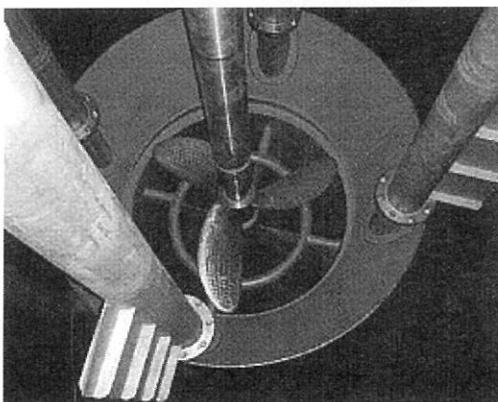
プラズマアーク炉





鴨田エコパークの全景

ューブエアレーター）を用いています。DTAは、し尿のような高濃度の排水から浄化槽汚泥やメタン発酵汚泥の脱水ろ液のような中濃度の排水まで高効率な攪拌とばつ氣を行うことができます。硝化脱窒素槽では、单一槽でプロアによる空気の供給（好気）と停止（嫌気）を時間的に区分し、硝化反応と脱窒反応を繰り返し、高度な窒素除去を行います。硝化菌脱窒素菌を含む硝化脱窒素槽の汚泥濃度は、後段の膜分離装置により高濃度に維持することができ、窒素除去反応を効率的に行うことができます。溶解した生ごみと脱水汚泥は、メタン発酵槽に投入され、16日間滞留し、メタン発酵します。発生したメタンガスはガスホルダーに一旦貯留し、マイクロガスタービンにより発電し、電気と温水を回収します。回収した再資源エネルギーは施設内で有効利用されます。



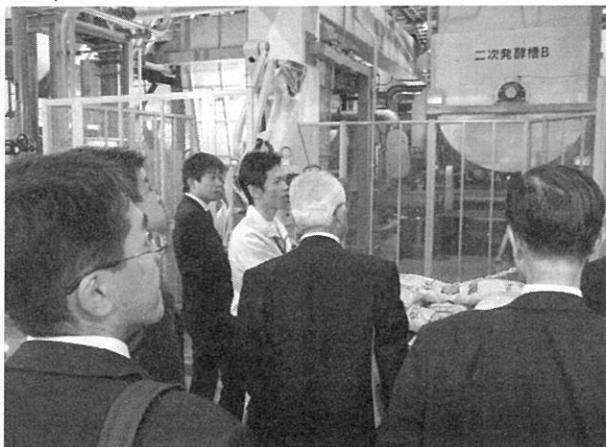
DTA（ドラフトチューブエアレーター）

次に愛知県北名古屋市九之坪にある「鴨田エコパーク」で、山内春樹所長の説明を受けた後、施設見学を行いました。

鴨田エコパークは、し尿及び浄化槽汚泥を処理する施設です。処理方式は膜分離高付加脱窒素処理方式+高度処理+資源化（メタン発酵+堆肥化）で、処理能力は1日あたり110キロリットルです。さらに、生ごみも1日あたり7.14トン処理しています。処理法は、硝化反応と脱窒反応を単一槽で無希釀にて行い、攪拌・ばつ氣装置としてDTA（ドラフトチューブエアレーター）を用いています。DTAは、し尿のような高濃度の排水から浄化槽汚泥やメタン発酵汚泥の脱水ろ液のような中濃度の排水まで高効率な攪拌とばつ氣を行うことができます。硝化脱窒素槽では、单一槽でプロアによる空気の供給（好気）と停止（嫌気）を時間的に区分し、硝化反応と脱窒反応を繰り返し、高度な窒素除去を行います。硝化菌脱窒素菌を含む硝化脱窒素槽の汚泥濃度は、後段の膜分離装置により高濃度に維持することができ、窒素除去反応を効率的に行うことができます。溶解した生ごみと脱水汚泥は、メタン発酵槽に投入され、16日間滞留し、メタン発酵します。発生したメタンガスはガスホルダーに一旦貯留し、マイクロガスタービンにより発電し、電気と温水を回収します。回収した再資源エネルギーは施設内で有効利用されます。



鴨田エコパークの概要説明

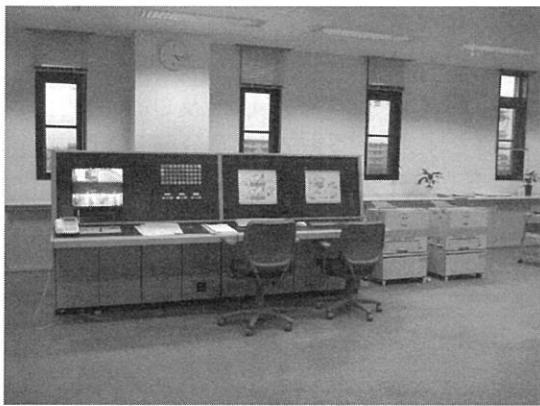


二次発酵槽の説明

今回の施設見学会は、最新のごみ処理施設、ごみリサイクルへの取り組み、し尿処理を学ぶ有意義なものとなりました。参加した学生に感想を聞いたところ、「研究課題にマッチした内容であり、とても勉強になりました。」と述べていました。

最後に五条川工場及び鴨田エコパークの関係者の皆様にお礼を申し上げて報告とします。

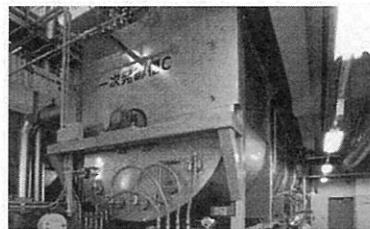
(K.S)



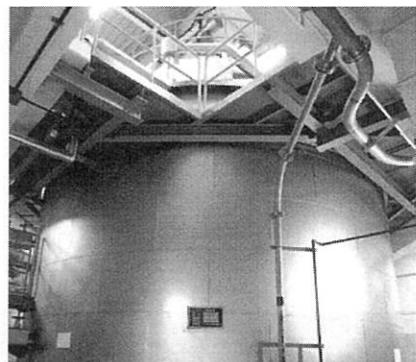
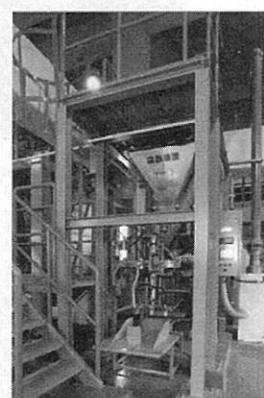
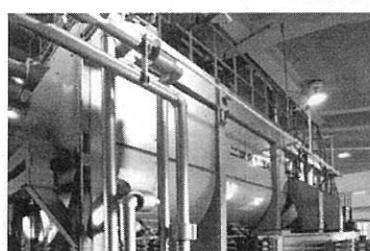
鴨田エコパークの制御室



五条川工場の制御室



メタン発酵後の脱水
消化汚泥を発酵させて、
肥料にします。



メタン発酵槽

堆肥化設備



参加されたみなさん 於 五条川工場

アンケート
による

賛助会員（企業）の意見

長年の懸案事項であった廃棄物学会の法人化がいよいよ来年度に実現する見通しとなりましたが、賛助会員をはじめ会員数の減少により学会財政が年々苦しくなっています。こうした状況下、支部助成金も減額され、苦しい支部財政を強いられています。東海・北陸支部は2007年10月30日、今後の会員増強及び支部活動を考える上で賛助会員の皆さんに下記のアンケート調査を実施しました。現在支部には17社の賛助会員が加入していますが、5社から回答を得ました。ここでは回答内容を紹介させて頂きます。

アンケート用紙

平成19年10月5日

廃棄物学会 東海・北陸支部 賛助会員（企業）アンケートのお願い

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

廃棄物学会東海・北陸支部は、見学会、講習会、市民フォーラム等の行事及び昨年度より小・中・高生への「環境教育の取り組み」を始め、会員や市民の皆様に役立つ学会にすべく努力しております。取り組み内容については、廃棄物学会東海・北陸支部ホームページまたは支部会報をご覧ください。廃棄物学会東海・北陸支部幹事会は、このたび、今後の運営方針を探るために賛助会員の方々のご意見を伺うことになりました。

お忙しいことと存じますが、主旨をご理解頂き、下記の問に対する回答をお寄せ頂ければ幸いに存じます。

回答はeメールでもFAXでも構いません。なお、締切を10月30日とさせて頂きます。よろしくお願ひ申し上げます。

廃棄物学会東海・北陸支部
支部長 鈴木 憲司

質問

1. 廃棄物学会に加入するメリットは？ ①～⑩のうち該当するものに○をつけて下さい。
(複数回答可)

- ① 廃棄物学会誌、論文誌、その他資料の受領
- ② 廃棄物学会研究発表会、その他学会開催行事への参加
- ③ 廃棄物学会誌、論文誌への寄稿
- ④ 廃棄物学会が行う事業への参加
- ⑤ 国際セミナーや海外研修視察へ参加できる

- ⑥ 各種シンポジウム、施設見学会、セミナー、講演会等へ参加できる
- ⑦ 廃棄物に関する最新技術・情報を取得、活用できる
- ⑧ 賛助会員が主催する研修会等の講師紹介を依頼できる
- ⑨ 学会ホームページから賛助会員ホームページへリンクできる
- ⑩ 会員間の交流、情報交換

その他 []

2.廃棄物学会に対して御社が望む事は？

[]

3.廃棄物学会に加入している事の御社内評価は？

[]

4.御社が廃棄物学会の活動に参加しやすいテーマや方法は？

[]

5.御社が廃棄物学会に対して行える事や協力できる事は？

[]

6.廃棄物学会賛助会員（企業）を増やすための意見や方法は？

[]

7.その他ご意見・ご要望

[]

回 答

1. 廃棄物学会に加入するメリットは？

- ① 廃棄物学会誌、論文誌、その他資料の受領……4社
- ② 廃棄物学会研究発表会、その他学会開催行事への参加……4社
- ③ 廃棄物学会誌、論文誌への寄稿……1社
- ④ 廃棄物学会が行う事業への参加……2社
- ⑤ 国際セミナーや海外研修視察へ参加できる……1社
- ⑥ 各種シンポジウム、施設見学会、セミナー、講演会等へ参加できる……3社
- ⑦ 廃棄物に関する最新技術・情報を取得、活用できる……3社

- ⑧ 賛助会員が主催する研修会等の講師紹介を依頼できる……0社
- ⑨ 学会ホームページから賛助会員ホームページへリンクできる……0社
- ⑩ 会員間の交流、情報交換……3社

2. 廃棄物学会に対して御社が望むことは？

- 支部においても将来分科会的な事が行えると良いと思う。
- ①廃棄物に対する最新の処理技術・再資源化等の情報の配布。
②技術社員の力量アップに繋がる講習・行事等の実施。
③共同研究先の紹介。
④新たなビジネスチャンスの発掘。
- より広い情報の開示と技術交流の促進
- 適正処理やリサイクル向上に関する新技術の交流。
- 環境・廃棄物関連の情報収集。

3. 廃棄物学会に加入している事の御社内評価は？

- 良好である。
- 他学会と比較すると、現在弊社が製造している機器との関連性が最も大きいと考えられる。社員全体に行きわたっているかと言うと、そうでもなく利用者は限られているのが難点です。
- 幅広く専門的な情報収集ができ、加入している意義は大きい。
- 3Rの考えが定着化してきているので、廃棄物処理という概念は薄くなっている。
- 学会への参加（発表時）や支部常議員としての参加に対し、了解を得ています。

4. 御社が廃棄物学会の活動に参加しやすいテーマや方法は？

- 災害廃棄物、最終処分場、生ごみ等堆肥化、汚泥減容化、水質浄化、不法投棄廃棄物の現状回復
- ①環境ISO等に適合・増進するべく活動（テーマ）。
②各種リサイクル関連法の解説・説明。
③設備の見学会。
- メタン発酵技術、炭化技術。
- 廃車リサイクル。
- 地球温暖化対策、大気汚染防止技術等。

5. 御社が廃棄物学会に対して行える事や協力できる事は？

- 災害廃棄物、最終処分場、生ごみ等堆肥化、汚泥減容化、水質浄化、不法投棄廃棄物の現状回復等の施工実績や実験状況等の発表
- ①自社設備の見学会の開催。
②地方の大学・研究機関等への紹介。

- ③インフラの整備等は回答から除外。

 - 各種シンポジウム、施設見学、セミナー、講演会等への参加。
 - リサイクルの取り組み事例（工場）見学。
 - ①廃棄物学会研究発表会の発表・聴講。
②論文誌への投稿。

6. 廃棄物学会賛助会員（企業）を増やすための意見や方法は？

- PRを行う（新聞等で行事等を取り扱う）
 - ①展示会（環境関連）に小さなブースで良いので出展し、賛助会員の有益性を説明できること良いと思われる。
 - ②学会のテーマ等の公知が第一。
 - ③入会した場合の効果の説明を分りやすく行う。
 - 廃棄物処理（環境装置）関連メーカーだけでなく、異業種へのPRを積極的に進める。
Ex.食品外食産業、食品リサイクル法、メタン発酵など、産業廃棄物排出メーカー（製造業）
 - ①他の学会との重複をなくす。
 - ②当学会の目指す方向性を示す。
 - ①賛助会費の減額。
 - ②他支部の取り組み状況の調査（当支部にも活用できる適切な取り組みがあれば参考にする等）。

7. その他 ご意見・ご要望

- 学会誌の英文は不要（当社は）。必要・不必要を調査してみては？（経費削減のため）
 - 東海・北陸支部の課題ではありませんが、情報のメール配信等があると関係者に転送しやすいと思われます。現在、学会誌以外になかなかコンタクトする機会がありません。

以上

○○○○○○○○ 編集後記 ○○○○○○○○

会報 No.12 を発行したら、本年度も残すところあと 2 ヶ月足らずになってしまいました。会員の皆さんにはいかがお過ごしでしょうか。日々の仕事が自転車操業になっていませんか。忙しい中、健康管理もままならず、無理して働いていませんか。たまの休みも自宅で仕事、仕事の日々を送っていますか。風邪をひく暇もないくらい忙しいですね。体が資本の我が身、風邪など引かぬようにご自愛ください。そして、花粉が飛び散る季節になりました。この対策もしっかりと。

A horizontal row of 20 empty circles, evenly spaced, used for a rating scale or survey response.

廃棄物学会 東海・北陸支部 会報 No. 12
平成 20 年 1 月 25 日発行

廃棄物学会 東海・北陸支部 事務局
〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学エコトピア科学研究所
鈴木 憲司
TEL 052-789-5537
FAX 052-789-5537
E-mail k-suzuki@esi.nagoya-u.ac.jp
HP: <http://www.jswme.gr.jp/tohkai/>